

## IV. 新町建設の基本方針



### 1. まちづくりの理念

新町の各地区（集落）は、比較的規模が小さく、まとまりのよい単位を形づくっています。近年、ますます住民自治の重要性が強調されるなか、五桂池ふるさと村、立梅用水、丹生大師の里、元丈の里、近長谷寺と歴史の散歩道など、地区が主体となって、地域の資源を見直し、活用した取り組みが芽吹き、活発化しています。

地域の個性と自立とが求められる分権時代のまちづくりにおいて、こうした地区単位での主体的な取り組みは欠かせないものであり、新町のまちづくりにおいても大きな力となることが期待されます。

一方、補完性の原理にもとづき、住民が担える分野は住民の主体的な活動に委ね、行政は、行政の専門性を発揮すべき分野に重点を置くことによって、思い切ったスリム化を図ることが求められています。

多気町と勢和村の両町村は、地理的、歴史的な地域特性から共通する面が多く、これを新町の特徴として十分に発揮することが求められています。つまり、恵まれた自然、良好な産業立地条件、住民のやさしい人柄などを新町の特徴として、自らの力でよりよいまちをつくることこそ、真の「豊かさ」につながるものと言えます。

このため、新町においては、「自分たちの地域は自分たちの力で」という意識を一層高め、さまざまな年代のかかわりによって地域の力を最大限に引き出すとともに、合併を機に、両町村のよいところを取り入れながら、一体感・連帯感を生み出すことによって、相乗効果を高め、新町全体として「住民自治を基礎に、積極的な行財政改革を進め、住民と行政とが協働する足腰の強いまちづくり」を進めます。



### 2. 新町の将来像

#### 自然と産業が調和し、活力のある住みよいまち

新町は、恵まれた自然の中で、豊かな生活を送ることができる調和の取れたまちです。また、両町村は、ともに農業を基盤として発展し、近年では、環境と立地条件のよさから先端産業の進出もあり、働く場の創出と所得の向上が図られています。

恵まれた自然環境を守るため、ごみや生活排水の処理対策などによる環境負荷の低減を図りつつ、地球環境を念頭に置き、新エネルギーや地球温暖化対策に取り組むまちをめざします。あわせて、クリーンで付加価値の高い知識・情報産業などの発展による雇用の場の確保とともに、基盤産業としての農林業の振興を図ることにより、自

然と産業が調和した活力のあるまちをめざします。

また、災害に強いまちづくりを進めるとともに、快適な住環境のさらなる向上を図ることにより、だれもが安心して暮らすことのできる住みよいまち、住みつづけられるまちをめざします。

## 人がやさしく、思いやりのあるまち

古くから、両町村は文化的な一体感を有し、美しい自然と農村的なコミュニティのつながりによって、住民のあたたかい心を育んできました。

これからの「成熟社会」においては、心の豊かさが住民にとって価値あるものの一つであると言えます。地域社会の少子高齢化が進むなかで、心の豊かさを実現していくためには、だれもが生きがいや夢、希望を持てることが重要です。

このため、学校教育や生涯学習、地域文化の振興などを通じて、個性を尊重し、愛着と誇りを持てるまちをめざします。

また、住み慣れた地域の中で、お互いが支え合い、助け合うという面に重点を置き、だれもが健やかに暮らせるとともに、安心して子育てができ、老後を過ごせる、人が人にやさしい思いやりのあるまちをめざします。

## 交通の要衝として発展するまち

新町は、古くから交通の要衝であり、街道を通じて人びとが行き交い、近代以降も鉄道の分岐点として栄えた地域です。今後、新たに、近畿自動車道紀勢線が開通し、ジャンクションで結ばれば、松阪、伊勢、奥伊勢・紀州地域の結節点としての役割が増すことが期待されます。

一方、里地里山の風景が広がるのも新町の特徴であり、これらを癒しの空間として、盛んに交流活動が進められています。

このような好条件を活かし、さらに道路・交通網や情報通信網を整備することにより、交流を促進するとともに快適な暮らしを実現するまちをめざします。

また、新町の中央に位置することとなる勢和多気インターチェンジ・ジャンクションを活用し、産業・文化面で人やモノ、情報が活発に行き交うまちをめざします。

以上を受け、新町の将来像を次のとおり定めます。

『自然と産業が調和し、みんなで創る心豊かなまち』



## 3. 基本政策の大綱

### 住民と行政とが協働する足腰の強いまち

---

- 住民とともに歩み、コミュニティを重視するまちづくり（分権・自治）
  - ・住民、自治会などの地域組織、NPO、企業、行政などの連携・協働によるまちづくりを推進します。なかでも、自らの力でより良い地域をつくるコミュニティ活動を重視し、その充実に努めます。
  - ・効率的な行政機構への再編成、事務の合理化をはじめとする行財政改革を推進します。

### 自然と産業が調和し、活力のある住みよいまち

---

- 自然と共生した安全なまちづくり（環境・防災）
  - ・美しい自然環境を守り、未来に継承するとともに、新エネルギーの導入や地球温暖化の防止に取り組み、地球環境にやさしい資源循環型の地域社会をめざします。
  - ・住環境のさらなる向上を図り、快適に生活できるまちをめざします。
  - ・災害に強いまちづくりに向けて、住民の防災意識を高めるとともに、治山治水や震災対策を進めます。また、地域ぐるみで交通安全や防犯の対策を進めます。
- 地域経済の安定を生み出す産業づくり（産業）
  - ・立地条件や環境の良さを活かして、知識・情報産業の集積を促進するなど、商工業の振興による地域経済の自立化を図り、職住近接型のまちづくりを展開します。
  - ・地産地消の推進をはじめ消費者とのつながりを生み出す新しい農林業を展開するとともに、大胆な経営改革をうながすなど、基盤産業としての農林業を振興します。

### 人がやさしく、思いやりのあるまち

---

- 安心して暮らせる地域社会づくり（健康・福祉）
  - ・地域ぐるみの支え合い、助け合い活動を重点に置き、子どもから高齢者まで、だれもが健康で、安心して暮らすことのできる福祉コミュニティづくりを進めます。
  - ・安心して子どもを育てることができる環境整備を進めるとともに、子どもの心を育てる地域づくりを展開します。
  - ・高齢者・障害者の社会参加と自立をうながすとともに、介護や支援が必要となったときのサービスを充実させます。
- 教育・文化・人権を大切にすまちづくり（教育・文化）
  - ・住民が愛着と誇りを持てるまちをめざし、地域にある資源、学校や企業などを活かして、特色ある教育を進めます。また、個性と人権を尊重し、生きる力を育む教育を進めます。

- ・住民主体の学習活動を活発化させるとともに、伝統文化を継承しつつ、新たな地域文化が創造され、育まれる環境を整えます。

## 交通の要衝として発展するまち

- **交通の利便性を活かした産業と交流のまちづくり（交流）**
  - ・住民どうしの交流を活発にするとともに、伊勢自動車道、鉄道、国道42号などを活用し、新町内の資源や新たな交流要素を取り入れ、人が行き交うまちづくりを進めます。
- **快適な生活を支える基盤づくり（社会基盤）**
  - ・高速交通網の整備にあわせて、新町内をつなぐ体系的な道路網の整備を推進するとともに、公共交通の充実を図ります。
  - ・情報通信網の整備・活用による、高度情報化に対応したまちづくりを進めます。



## 4. 新町の地域構造

### (1) 地域整備の方針

新町の将来像である「自然と産業が調和し、みんなで創る心豊かなまち」をめざし、均衡ある発展を図るため、次の方針に基づき、地域の特性や課題に応じた土地利用や拠点的な都市機能の整備を進めます。

#### □ 田園居住ゾーン

農村的な集落および農地・里山などで構成されるゾーンであり、優良農地の保全と農業生産基盤の整備を推進し、生産性の高い農業を確立するとともに、美しい田園風景の保全や里山の持つ公益的機能の増進、交流空間の整備などを進めます。

また、快適な住環境や利便性のさらなる向上を図り、農村が有する豊かな自然環境や地域が受け継いできた歴史・生活文化などの資源を生かした魅力ある居住環境を形成します。

#### □ 生活拠点ゾーン

行政施設等が集積している地区であり、日常生活の拠点的役割を担う地区として位置づけ、環境との共生に配慮しながら、生活基盤の整備、既存施設の有効利用の促進などにより、日常生活を支える行政機能、文化、保健・福祉機能などの集積を進め、その拠点性の向上を図ります。

## □ 都市ゾーン

すでに公共施設や商業施設、住宅団地、工業団地、鉄道駅等の都市機能が複合的に集積するゾーンであり、防災機能に配慮しつつ、遊休地等の計画的な利用に努め、産業活動と生活・居住環境、そして自然環境とが調和した職住近接型の魅力ある市街地の形成を図ります。

特に、広域的な位置づけの中で、新町の自立的な発展に寄与する都市拠点の形成をめざし、条件や環境の良さを活かした知識・情報産業の集積を促進するとともに、「クリスタルタウン」の整備や都市サービス機能の充実、多気駅周辺の整備などを進めます。

## □ 交流拠点ゾーン

地域資源の活用や再構築により新たな魅力が創出され、すでに住民や来訪者の憩い・交流の場が形成されているか、あるいは今後期待される地区であり、主体となる住民の活動を支援するとともに、資源活用の環境づくりや各拠点のネットワーク化を促進します。

また、地区住民が集うコミュニティの核としての役割も果たすことが期待され、都市および生活拠点ゾーンとの連携を強化し、地区コミュニティの活性化をうながします。

## □ インター周辺ゾーン

近畿自動車道紀勢線の整備により、今後、勢和多気インターチェンジ周辺は、利用価値の高い地区として開発が進むことが予想されます。また、この地区は新町の中央に位置するだけでなく、松阪、伊勢、奥伊勢、紀州地域の結節点としての役割が増すため、無秩序な開発を抑制し、新町にとって有効な活用が図られるよう、計画的な利用を推進します。

## □ 森林ゾーン

豊かで美しい自然環境を守り、森林の公益的機能の維持・増進、森林資源の適正管理を行うとともに、森林の多面的機能を生かした自然体験や交流の場としての活用を図ります。

## (2) ネットワークの方針

---

各ゾーンをつなぎ、新町の骨格となるネットワークの考え方を、次のものとします。

### □ 新町内の道路ネットワークの形成

国道42号・国道368号、および県道勢和兄国松阪線、広域農道の整備を促進し、新町の3つの骨格軸を形成します。さらにこれらを補完し、主に南北方向に連絡する生活道路の充実により、新町内の体系的な道路網を形成します。

## □ 公共交通の充実

鉄道の利便性向上と駅的环境整備を働きかけるとともに、町民バスの新しい路線の確立やだれもが利用しやすい環境の向上などにより、公共交通の充実を図ります。

## □ 観光・交流ネットワークの充実

立梅用水沿いの散策路や古道、歴史の散歩道などにおける取り組みを活かして、観光資源や交流拠点ゾーンをむすぶ散策ネットワークの形成を図り、沿道の景観づくりを広げ、美しいまちづくりを進めます。

また、伊勢自動車道や幹線道路との連絡に配慮し、熊野古道や宮川流域、櫛田川流域などにおける広域連携を高めることにより、広域的な観光ルート化を図ります。

## ■ 地域構造図

